

作家紹介

斉と公平太（さいと こうへいた）×アメデオ・モディリアーニ

1972 年 愛知県生まれ
1995 年 名古屋造形芸術大学（現・名古屋造形大学）美術科 2 類卒業
2009 年 作家名を齋藤公平から斉と公平太に変更
現在 愛知県在住

「LOVE ちくん」「ART くん」「オカザえもん」など、多くの人に響く作品を生み出しながら、「美術」を取り巻く制度や環境を批判的に見つめる。本展では、アメデオ・モディリアーニに対する個人的なリサーチとその結果を展示空間にそのまま提示し、作家や作品の受容、作家と作品の関係性を問う。

斉と公平太《「モディリアーニのおさげ髪の少女」の模写》（制作風景）2025 年、作家蔵

展覧会・受賞歴（抜粋）

2005 年 「第 8 回岡本太郎記念現代芸術大賞展」特別賞受賞
2010 年 「あいちトリエンナーレ 2010」まちなか会場、愛知
2015 年 愛知県芸術文化選奨文化新人賞受賞
2019 年 「アイチアートクロニクル 1919-2019」愛知県美術館
2022 年 「愛知県美術館コレクション展」愛知県美術館

※アメデオ・モディリアーニの作品は
地下 1 階の常設展示室に展示予定



アメデオ・モディリアーニ
《立てる裸婦(カリアティードのための習作)》1911-12 年、
名古屋市美術館蔵



アメデオ・モディリアーニ
《おさげ髪の少女》1918 年頃、
名古屋市美術館蔵

田村友一郎（たむら ゆういちろう）× ジョナサン・ボロフスキー

1977 年 富山県生まれ
2003 年 日本大学芸術学部写真学科卒業
2010 年 東京藝術大学大学院映像研究科修士課程修了（メディア映像学）
2013-14 年 ベルリン芸術大学空間実験研究所 オラファー・エリアソンクラス在籍
2017 年 東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了（メディア映像学）
2019 年 名古屋芸術大学美術領域現代アートコース准教授
現在 京都府在住

特定のテーマや既存のイメージを起点に様々な着想源から関係性や物語を構築し、写真や映像、インスタレーションなどの多様なメディアを用いて、現実とフィクションが交錯する世界を生み出す。本展では、ジョナサン・ボロフスキー《フライングマン》を起点に、ジョナサン・ボロフスキー本人とのメールでの対話を通して得られた認識の具体化を試みる。



田村友一郎《TiOS》（「未完の始まり：未来のウンダーカンマー」、豊田市美術館、インスタレーション）、2024 年、豊田市美術館蔵

展覧会・受賞歴（抜粋）

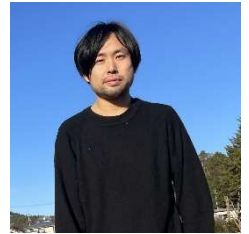
2011 年 第 14 回文化庁メディア芸術祭 アート部門優秀賞受賞
2018 年 個展「叫び声/Hell Scream」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
2022 年 国際芸術祭「あいち 2022」常滑市、愛知
2024 年 個展「田村友一郎 ATM」水戸芸術館現代美術ギャラリー、茨城
2024 年 「阪神・淡路大震災 30 年 企画展 1995 ⇄ 2025 30 年目のわたしたち」
兵庫県立美術館

ジョナサン・ボロフスキー《フライングマン》
1981-83 年 名古屋市美術館蔵



蓮沼昌宏（はすぬま まさひろ）×マリア・イスキエルド、高松次郎

1981年 東京都生まれ
2005年 東京藝術大学美術学部絵画科卒業（油画）
2007年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了（美術解剖学）
2010年 東京藝術大学大学院美術研究科博士課程修了（美術解剖学）
現在 長野県在住 名古屋芸術大学非常勤講師



絵画・キノウ装置を用いたアニメーション・写真など、さまざまな手法を用い、自身が見て、体感したことから物語をつむぎ出す。本展では、メキシコのシュルレアリスム画家マリア・イスキエルドの作品と、近年取り組んでいる影絵や絵画とを交差させ、物語や夢、イメージの自律性について思考する。

また、2025年の「横浜トリエンナーレ」で高松次郎の壁画の再制作を行った経験から、地下鉄東山線・桜通線名古屋駅にある高松次郎の壁画《イメージスペース・名古屋駅の人々》に注目し、作家の発案により、愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所と名古屋市美術館の共同研究として、本展開幕前に壁画の清掃・調査を行う。



蓮沼昌宏《カーテンが映る部屋》
2025年、作家蔵

展覧会・受賞歴（抜粋）

2003年 「鳩とのフィールドワーク」 伽羅舎、東京
2005年 「横浜トリエンナーレ 2005 高松次郎 “工事現場の塀の影” 作品再制作プロジェクト」、神奈川
2019年 「DOMANI・明日展」 国立新美術館、東京
2021年 「ふへほ展」 アートラボあいち、愛知
2023年 「こまきくるくる文庫 歩く 歩く 歩く 歩く 転ぶ 歩く展」
小牧市中央図書館、愛知
2023年 「Art Obulist 2023 蓮沼昌宏展 走馬灯と消防」 旧消防署共長出張所、愛知



高松次郎《イメージスペース・名古屋駅の人々》
1989年、地下鉄東山線・桜通線名古屋駅

三瓶玲奈（みかめ れいな）×桑山忠明、アンディ・ゴールズワージー

1992年 愛知県生まれ
2015年 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業
2017年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了
現在 静岡県在住。東京都、静岡県を拠点に活動。

対象を見ること、モチーフを取り巻く環境や現象を絵画に定着させることについて深く思考しながら作品を制作する。本展では、桑山忠明が作品にうつす人工物による光の現象、アンディ・ゴールズワージーの自然による現象と、三瓶が作品にとらえる現象とが交差する展示空間を構成する。



展覧会・受賞歴（抜粋）

2016年 個展「投影」 Yutaka Kikutake Gallery、東京
2017年 個展「project N 69 三瓶玲奈」 東京オペラシティアートギャラリー
2019年 「アーツ・チャレンジ 2019」 愛知芸術文化センター、愛知
2020年 「VOCA展 2020 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—」 上野の森美術館、東京
2021年 公益財団法人豊田市文化振興財団 豊田文化新人賞
2024年 「Drawing with the Light」 The Reference、ソウ

三瓶玲奈《The Face》 2025年、作家蔵
Courtesy of the artist and Yutaka Kikutake Gallery、
撮影: Kenji Takahashi



桑山忠明 《無題》 1978-79年 名古屋市美術館蔵